

「鉄筋コンクリート構造計算規準改定 ならびにX形配筋部材設計施工指針」講習会

<主催> 日本建築学会 構造委員会 鉄筋コンクリート構造運営委員会

<後援予定> 建築業協会、全国建設業協会、日本建築家協会、日本建築構造技術者協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、日本建築センター、日本コンクリート工学協会、日本鉄鋼連盟

このたび、鉄筋コンクリート構造計算規準に関して、以下のような改定を行った。

- (1) 使用性、損傷制御性、安全性という3つの性能に関する本規準の立場を示した。
- (2) 二次設計を行う建物の柱と梁のせん断検定では、短期荷重時のせん断力をそのまま使用できるものとした。
- (3) 二次設計を行う建物の柱と梁の付着検定では、短期荷重時の曲げ付着応力度と1988年版の許容付着応力度を使用できるものとした。
- (4) 非耐震部材の定着規定を柱・梁主筋より緩和した。耐震部材の定着規定も単純化するとともに、ディテールにより緩和できるものとした。
- (5) 耐震壁に関する規定を下記のように拡充した。
 - ・袖壁付き柱、腰壁付き梁、側柱のない壁の許容せん断力を算定できるようにした。
 - ・縦横筋比が異なる場合の扱いを示した。
 - ・縦長の開口、複数開口を考慮し得る開口低減率を提案した。
 - ・開口補強筋の算定方法を合理化した。
- (6) 構造設計例を、腰壁付き梁や片側柱付き壁などを有する建物にした。
- (7) 長期荷重時における変形とひび割れに関して、高強度コンクリートへの適用を考慮するとともに、クリープ・収縮による曲率計算式を示した。
- (8) 保有水平耐力の計算、必要保有水平耐力の設定に関して、危険側のモデル化がなされないように、チェックリストと解説を掲載した。

さらに、鉄筋コンクリートX形配筋部材設計施工指針をあらたに作成した。X形配筋はせん断破壊や付着破壊の防止に有効であることは、よく知られている。今回、その短期設計および終局強度設計に利用する部材設計法および施工要領をまとめた。また、その理解を助けるために、原理と特徴、設計例、および施工例を示した。

1. 開催日・定員・会場・申込先・参加費振込方法・振込先

開催地	開催日	定員	会場	申込先	参加費振込方法・振込先
東京	2010年 4月13日(火)	200	建築会館ホール (東京都港区芝5-26-20)		4月13日は定員に達しましたので、受付を終了いたしました。 追加のご要望があるため4月14日に追加講習会を開催します。 開催要領につきましては下記をご参照ください。 http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2010/rc100414.pdf

2. テキスト 「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」(改定版) B5判 約440頁
「鉄筋コンクリートX形配筋部材設計施工指針・同解説」(新刊) B5判 約100頁

3. 参加費(テキスト代含む)

- (1) 日本建築学会会員 14,000円 (2) 登録メンバー 15,000円 (3) 後援団体会員 16,000円 (4) 会員外(1,2,3以外) 19,000円
*登録メンバー: 会員外であって本会「能力開発支援制度」に登録された方(詳細は本会ホームページ <http://www.aij.or.jp/jpn/CPD/> をご参照ください)

4. プログラム

時間	10:30~11:00	11:00~11:40	11:40~12:20	12:20~12:40	13:40~14:40	14:40~15:00	15:20~16:20	16:20~17:00
内容	概要	柱梁	定着	スラブ	壁	保有耐力	設計例	X形配筋
講師	市之瀬敏勝 (名古屋工業大学)	北山和宏 (首都大学東京)	後藤康明 (北海道大学)		壁谷澤寿海 (東京大学)		角 彰 (日本建築総合試験所)	

* 講師・時間割りは都合により変更となる場合があります。